

素晴らしいマネジメントを行っている内容であり、発表後には医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、医療クラーク等から活発な討議がなされました。

「電子カルテを用いた医療連携の現在と未来」のテーマでシンポジウムを「チームによる転倒予防マネジメント」の演題でランチョンセミナーを、「静岡県静岡医師会が取り組んできた医療連携」の演題で教育講演を行い、いずれの演題もテーマに則したマネジメントを考える機会となる内容で、最後まで多くの参加者が熱心に聞いていました。

最後に、本学術集会開催に当たりご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

## 第19回岡山県支部学術集会

学術集会会長：岡山大学病院病院長 金澤 右



会場風景

2017年9月2日(土)に Junko Fukutake Hallにおいて、「地域連携の未来を拓く～ICTの可能性とピットフォー

ル～」をテーマとし、地域医療に広く活用されているICTにスポットを当てて開催しました。当日は日本晴れのもと221名の参加をいただきました。特別講演では、富士通株式会社首席エバンジェリストの中山 五輪男先生から現場におけるICT変革やシンギュラリティの到来による医療の世界の変化についてご講演いただきました。シンポジウムでは、岡山県が多職種連携モデル事業や晴れやかネットの現状や利用について発表いただきました。ランチョンセミナーでは、高野クリニックの高野秀雄先生から医療を核とした地域再生を目指した「地域医療魚沼学校」の取組みについてお話いただきました。さらに口演11題、ポスター発表6題、クリティカルパス3題と応募をいただき、盛会となりました。最後に、本学術集会開催にあたりご支援・ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

## 第14回鳥取県支部学術集会

学術集会会長：鳥取大学医学部附属病院病院長 原田 省

2017年9月2日(土)に米子市文化ホールで「自問自答！鳥取の医療マネジメント～できるようになったこと、まだできていないこと～」をテーマとして、第14回日本医療マネジメント学会鳥取県支部学術集会を開催しました。シンポジウムではこれまでの鳥取

の医療マネジメントを振り返り、医療安全、感染対策、クリティカルパス、チーム医療、地域連携の5項目について各病院に自己評価をしてもらい、現状と問題点を病院間で共有して、今後の方向性を議論しました。パネルディスカッションでは変革期の医療安全をどう整備するかについて、現状を踏まえて議論しました。特別講演では千葉大学の相馬孝博先生に医療安全におけるノンテクニカルスキルについて、ランチョンセミナーでは銅版画家の山本容子先生に Art in Hospitalについて貴重なお話をいただきました。一般演題では39題のポスター発表を行い、10題を優秀演題として表彰しました。参加者は約200名で活発な意見交換が行われ、大変有意義な学術集会を行なうことができました。ご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに心より厚く御礼申し上げます。

## 第18回茨城県支部学術集会

学術集会会長：筑波大学附属病院病院長 松村 明

2017年9月16日(土)、筑波大学大学会館において「医療安全 医療の質から考える 医療マネジメント」をテーマに、第18回茨城県



会場風景

支部学術集会を開催いたしました。

「医療安全」「医療の質」「教育」「薬剤管理」「病院運営」をテーマとした一般演題(口演)39題、「災害」「看護」「医療連携」「チーム医療」「感染」をテーマとしたポスター発表43題、クリティカルパス8題と幅広いテーマから数多くの応募をいただきました。当日は約470名もの参加者が集い、各職種独自の視点で展開される発表に興味深く聞き入っていました。

また、基調講演として、厚生労働省大臣官房国際課国際保健企画官 堀 裕行先生に「医療提供体制を取り巻く現状について」と題したご講演をいただき、さらに教育講演では、横浜市保健福祉局衛生研究所所長 大久保 一郎先生に「日本の医療制度の現状と課題」についてご講演いただきました。加えて、4名のパネリストの先生方にご参加いただき「医療安全、医療の質におけるチーム医療教育」をテーマに有意義なディスカッションを行っていただきました。

皆様のご協力のお陰で無事に会を終了できましたことを厚くお礼申し上げます。